



れていますよね。アイヌ語地名は山や川の名前など、地形の特徴や目印となるように付けられたものが多く、中でも登別や土別の「別」、稚内や岩内の「内」のように、ペッやナイの付く地名がダントツに多いんです。ペッもナイも川という意味で、サケが遡上する川、交通路としての川など、川はかつてのアイヌの暮らしと切り離すことの出来ない大切な存在でしたのでその名が多いのはわかりますよね。



村木美幸
(アイヌ民族文化財団理事)

北海道の市町村名のおよそ八割がアイヌ語に由来することは良く知られていますよね。アイヌ語地名は山や川の名前など、地形の特徴や目印となるように付けられたものが多く、中でも登別や土別の「別」、稚内や岩内の「内」のように、ペッやナイの付く地名がダントツに多いんです。ペッもナイも川という意味で、サケが遡上する川、交通路としての川など、川はかつてのアイヌの暮らしと切り離すことの出来ない大切な存在でしたのでその名が多いのはわかりますよね。

Vol.76
今月のテーマ
アイヌ語地名散歩
ーペッ/ナイ編ー

なるほどアイヌ文化エッセイ

ソッコ de ソッコ



アイヌ文化のことをもっとも話したい！
本田優子と村木美幸の二人が、
その魅力を交代で執筆する
ソッコ(=お便り)形式のエッセイです。



イラスト/ 莊田悠人

北海道の川で一番長い石狩川のアイヌ語地名を当時の地形や生活を思い浮かべながらいくつか紹介しますね。
石狩川は、大雪山系の石狩岳を源流として層雲峡を通り、上川盆地から石狩平野に流れ、石狩湾へ注ぎます。その間、層雲峡近くにはソーウンペツ(滝ある川)が流れていて地名を聞くだけで滝があることがわかりますし、旭川近くの春志内(ハルウシナイ=食べもの多い所の川)は、アイヌが食用としたキョウジャンニクヤオオウバユリが群生している目印となります。雨竜川沿いの秩父別(チフウンペツ)は、交通路として重要な川で



今回のテーマは「アユニ=チフ(ハリギリの丸木舟)」が担当します。
本田優子(札幌大学教授)

あったことがうかがえますし、雨竜川と石狩川が合流する妹背牛(モセウシイラクサのある所)は強靱な繊維の取れるイラクサが生えている場所の目印になります。穀物の穂摘み具としても利用される清流に生息する二枚貝のカワシンジュガイ由来する美唄(ヒバ、オイ=カワシンジュガイのある所)、月形町にある厚軽白内(アツカルウシナイ=オホヨウの皮とる川)は、アイヌの伝統衣服であるアットウシ(樹皮衣)の材料となるニレ科のオホヨウの木がたくさん生えている目印となる、というようにアイヌ語地名は暮らしのお役立ち情報が満載なんですよね。
意味があつてつけられたアイヌ語地名でも、地形の変化や暮らしの変化などに伴い、今では本来の意味を確認することが難しくなっています。その意味でもアイヌ語地名は、アイヌの自然に対する考え方や、文化や歴史、言葉などの情報を示す文化遺産といえますよね。



- 本田優子(ほんだゆうこ):金沢市生まれ。札幌大学教授。北大卒業後11年間平取町二風谷に住み、アイヌ語講師を務める。
- 村木美幸(むらきみゆき):白老町生まれ。アイヌ民族文化財団理事。先住民族アイヌの一員として文化継承活動に努める。
- 莊田悠人(しょうたゆうと):平取町二風谷生まれ。漫画家兼イラストレーター。幼い頃のアイヌ文化が原風景。東京在住。